

システム更新容易に

交換ツール 独自開発 コストと時間削減

総合電子計算センター

システム開発の総合電子計算センター(高崎市歌川町)松本長光社長は、コンピュータ上のプログラムやデータを新システムに移行・交換するマイグレーション事業を強化する。独自開発の交換ツールを用い、コストを従来の三分の一に削減。企業や官公庁向けのITサービスとして全国展開していく。

の県内拠点とする構想もあり、同社は設備環境を整える準備を進めている。

同社によると、大型コンピュータ上で稼働する業務用ソフトウェアには、企業の資産ともいえるデータやプログラムが蓄積されている。

を切り、旧式データを新システム用に自動変換する技術を開発。手作業の書き換えに比べ、コストや作業時間を三分の一に縮小できるといった。

今後は、より小規模なオフィスコンピュータ(オフコン)も請け負う方針。都内の大手ソフトウェアベンダーと連携し、同社内をオフコン・マイグレーション

松本社長は「システム増強は業務の効率化や管理費削減につながる。不況下だからこそ投資効果がある分野で、多くの企業にPRしていきたい」と話している。

また、システムは老朽化が進む。旧システムの情報を最大限に活用しながら、より効率的な最新システムに移行する手段として、マイグレーションが有効とされている。

同社は、新旧コンピュータのデータを分析した上で交換ツール

を開発し、同社内をオフコン・マイグレーション

松本社長は「システム増強は業務の効率化や管理費削減につながる。不況下だからこそ投資効果がある分野で、多くの企業にPRしていきたい」と話している。